**第14課 ダビデの人口調査**2018.4.8

◎ 賛美(一同) : 韓日184番、韓日183番

◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条

◎ 御言葉朗読(一同) : Ⅰ歴代誌21章1∼5節

◎ 本文朗読

◎ 主の祈り(一同) : 最後に

◎ 今日のマナ

悪魔は今も吠えたける獅子のように食い尽くすべき者を求めて歩き回っています。神様の前で大きく用いられる人であるほど、悪魔の攻撃をますます多く受けます。ですから信仰生活に成功しているからといって、霊的警戒を遅らせていてはいけません。

**1. サタンの誘い込みによって罪を犯すダビデ**

ある日ダビデは突然、人口調査をしたいという思いになりました。問題はその心を神様ではない、サタンが与えたということです。歴代誌21章1節は“ここに、サタンがイスラエルに逆らって立ち、ダビデを誘い込んで、イスラエルの人口を数えさせた。”と言います。

今日、私たちの目で見る時は人口調査をすることはなんの問題にもなりません。しかしダビデの人口調査は神様の前では明らかな罪でした。

ダビデが人口調査をした目的も過ちでした。聖書にはダビデがどの目的で人口調査をしたのかについては書かれていません。しかし人口調査をした後に、ヨアブが“剣を使う者”の数を報告することを見るとダビデが自分の軍事的力を確認したかったことだと考えることができます(Ⅰ歴代誌21：5)しかしイスラエルは彼らの軍隊ではなく神様が代わりに戦われる国でした。ダビデが多くの戦いで勝利できたのはダビデの軍隊の力ではなく神様が共におられたからでした。しかしダビデが自らの力を知りたいとしたことは、神様ではない自分の力でしようとする高慢が彼の心に生じたという意味です。

またダビデの人口調査は民たちに経済的負担を与えることでした。出エジプト記30章11～16節によると人口調査をするたびに、20歳を超えるイスラエルの成人男性は聖所のシェケルで半シェケルを払わなければならなりませんでした。半シェケルは一般労働者が2週間働いて、稼ぐことのできる大きな額です。民たちを良く守らなくてはならないはずのダビデが特別な理由もなく人口調査をして民たちの生活を苦しめたのです。

ダビデは明らかに霊的な偉人でした。しかし続く成功を刈り取ると、霊的な警戒がゆるんでしまいました。ついにはサタンの誘惑に陥り神様の前で大きな罪を犯したのです。ダビデのような人も心を見守らなくては試みが訪れる時に陥ってしまいます。いつも神様の前で心を鍛えて、サタンに負けない聖徒にならなくてはなりません。

**2. 神様の裁き**

神様はダビデの人口調査を喜ばれませんでした。Ⅰ歴代誌21章7節は“この命令で、王は神のみこころをそこなった。神はイスラエルを打たれた。”と言います。ダビデの誤った決定によってイスラエル全体が苦しみを受けなくてはなりませんでした。その時になってダビデは自分の罪を悔い改めました。神様が与えられる苦しみは罪を悟らせるアラーム信号のようです。

神様はダビデに先見者ガドを送られました。それまでダビデに神様のメッセージを伝えた預言者はナタンでした。しかし神様が特別にガドを送った理由があります。ガドはダビデがサウルに追われて荒野で生活する時、神様のメッセージを伝えた預言者でした。神様がナタンではないガドを送られたのは、ダビデに初めの心を回復しなさいというメッセージでした。ガドはダビデに3つの裁きのうち一つを選びなさいと言いました。それは3年の飢饉と3か月の間ダビデが敵軍に追われることと、3日間イスラエルの地に疫病が及ぶことでした。この時ダビデは“それは私には非常につらいことです。私を主の手に陥らせてください。”と答えました(21：13)。ダビデは全ての処罰を神様にゆだねました。軍隊という人の力に頼ろうとした自分の過ちを悟り、神様に全てのことをゆだねたのです。私たちは罪に対する裁きを避けることができません。したがって謙遜に神様の御手に全てをゆだねて、あわれみを求めなくてはなりません。罪に対する懲らしめは苦しいかもしれませんが、私たちを滅ぼさせはしません。神様のあわれみが私たちに臨んだからです。それはイエス・キリストです。イエス・キリストを信じる人は赦しを受け全ての問題から回復されます。

**3. 神様の赦し**

神様の使いがイスラエルの地に疫病を下されました。その結果3日で7万名の人々が死にました。3日後神様の使いは裁きを止めて、エブス人オルナンの打ち場のかたわらでダビデを待ちました。ダビデは、使いの元に行き自分の罪によって民が苦しみを受けていることを苦しみ神様に赦しを求めました。その時、神様がガドを通してダビデがオルナンの打ち場で祭壇を築きいけにえを捧げるようにしました。ダビデはエブス人オルナン地を大金を払って買いそこで全焼のいけにえと和解のいけにえを捧げました。そうすると神様が火によって答えられました。“こうしてダビデは、そこに主のために祭壇を築き、全焼のいけにえと和解のいけにえとをささげて、主に呼ばわった。すると、主は全焼のいけにえの祭壇の上に天から火を下して、彼に答えられた”(Ⅰ歴代誌21：26)

ダビデは神様の前で罪を犯し、その結果として多くの人々が死んだ後になって赦しを受けることができました。この話はこのように憂鬱に終わることもできました。しかし話はここで終わりではありません。ダビデが神様が罪人に会ってくださり赦してくださったその地を神様の聖殿を建築する地に決めました(22：1)。人間は神様のことをしながらも、数多く失敗し転んでしまいます。しかし神様は人間の失敗を通しても神様の働きを成していかれます。ダビデの罪によって神様の聖なる聖殿が建てられる基盤を見つけたのです。

私たちの罪はいつ赦されるのでしょうか？それは礼拝の場所に進み出て、まことに悔い改める時、神様の赦しを受けることができます。そしてその時、神様の聖霊の炎が臨み新しい働きが始まるのです。

◎マナの要約

<サタンの誘い込みによって罪を犯すダビデ>

1. ダビデはサタンの誘い込みによって神様が喜ばれない人口調査を行いました。

2. 信仰の人だとしてもサタンの誘い込みに陥らないように注意しなければなりません。

<神様の裁き>

1. ダビデの罪によってイスラエルの地に神様の裁きが臨みました。

2. 罪を犯した時はイエス・キリストを頼り、神様のあわれみを頼らなくてはいけません。

<神様の赦し>

1. 神様はダビデの悔い改めのいけにえを受け取られ火によって答えられました。

2.ダビデは神様の赦しを受けたオルナンの地に神様の聖殿を建てることを決定しました。

3. 礼拝の場所に進み出てまことに悔い改める時に神様の赦しが臨み神様の新しい働きが始まります。

◎ 人生のマナ

<隣の人と挨拶>

1. サタンの誘惑に警戒しましょう。

2. イエス様の十字架を頼りましょう。

3. まことの悔い改めの礼拝を捧げましょう。

<祈り>

1. 毎瞬間に訪れるサタンの誘惑に勝利する力を求める祈りを捧げましょう。

2.イエス様の十字架を頼り私たちの罪を悔い改める祈りを捧げましょう。

3. 私たちが倒れた場所から神様の新しい働きを成してくださいと祈りましょう。

<とりなしの祈り>

隣の人と祈りの課題を分かち合い、共に祈りましょう。